

第 26 回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開 催 日	令和8年7月 28 日(火)			
開 催 時 間	開 会	午前9時00分	閉 会	午前10時45分
開 催 場 所	市役所5階 501・502会議室			
委員出席者	伊那市議会 伊那地区区長会 高遠町地区区長会 上伊那農業協同組合 上伊那森林組合 長野県経営者協会 上伊那支部 交通事業者 伊那市金融団 連合長野上伊那地域協議会 伊那市教育委員会 中部PTA連合会 伊那市保育園保護者会連合会 伊那市観光協会 伊那市女性人材バンク 公募 原 一馬 久保村 厚 田畑 和樹 田中 悟 富山 裕一（審議会会長） 吉川 明 中村 亮一 出澤 英則 小松 和雄 宮坂 文子 栗林 寿光 北原 昌康 向山 知希 金丸 恵美子 鈴木 孝之			
欠席者	長谷地区区長会 伊那商工会議所 伊那青年会議所 伊那市社会福祉協議会 信州大学 伊澤 隆一 唐澤 淳（審議会副会長） 伊藤 越百 矢澤 秀樹 酒井 俊郎			
委員以外の出席者	アドバイザー（上伊那地域振興局企画振興課） 上条 洋			
出席した事務局職員等	企画部長 企画部地域創造課長 企画部企画政策課長 企画部地域創造課移住定住促進係長 企画部地域創造課移住定住促進係 企画部地域創造課移住定住促進係 織井 邦明 田中 久 井口 大輔 田中 稔 小澤 恵理 倉島 崇誌			
議 事	(1) 伊那市地方創生総合戦略令和7年度実績及び令和8年度実施計画について (2) 伊那市の移住・定住施策について (3) その他			
配布資料	資料1 第3期 伊那市地方創生人口ビジョン・総合戦略の概要 資料2 伊那市地方創生総合戦略 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況 資料3 第3期 伊那市地方創生総合戦略 重要業績評価指標(KPI)の令和7年度実績報告及び令和8年度実施計画 資料4 伊那市の移住・定住施策について			

1 開 会

- ・新任委員への委嘱書交付(机上配布)
- ・副会長に、伊那商工会議所 副会頭 唐澤淳氏を選任。

2 あいさつ

(1)会長(富山裕一氏)

本審議会も第26回を数え、地方創生が歴史を刻んでいると感じている。伊那市の現状を見ると、資料の通りコツコツとした取り組みを積み重ね、人口などが維持されていることが大変大きい。今年度もぜひ活発なご意見をいただき、伊那市が発展していくようお力添えをお願いしたい。

(2)アドバイザー(上条洋氏)

地方創生がスタートして10年余り、国も色を変えながら進んできた。大切なのは地道に続けることだが、時代に合わせバージョンアップも必要。なかなか成果がすぐ見えるものではないが、5年後、10年後、20年後の子どもたちのために、皆様の身近な疑問やアイデア、ご意見を積極的にご発言いただきたい。

3 協議事項(進行:富山会長)

(1) 伊那市地方創生総合戦略令和7年度実績及び令和8年度実施計画について

会 長:事務局から説明をお願いします。

事務局:(資料1、資料2、資料3により説明)

会 長:説明内容について、意見、質問等はあるか。

委 員:進捗評価について。初年度の捉え方が難しいと思うが、指標値に対して令和7年度実績を見ると、基準に達していなくても「概ね順調」等上方修正されている項目もある。また、令和8年度の実施計画にも年度ごとの目標値を記載してもらおうと分かりやすい。

事務局:年度ごとの目標値の掲載についてはできる限り対応したい。令和7年度の評価については、担当課で4年後を見据えた現状の立ち位置で評価をいただいている。評価のバラつきについては、今後は統一し、しっかりとした評価ができるよう進めていきたい。

委 員:伊那市の特長をどう捉え、分析してこの計画に落とし込んでいるのか。

事務局:市の地方創生総合戦略では、地方から「日本を支えるモデル地域構想」を掲げ持続可能な地域社会を目指している。国や県の考え方を参考にしつつ、伊那市に適した事業を盛り込んでいる。

委 員:産業振興について。地域に産業が根付かないと衰退する。産業振興についての考え方をお聞かせいただきたい。

事務局:これまでも企業誘致を進めてきたが、これからは今ある企業を育成していく方針。若者世代が戻ってこられるような安定した職が必要と考えている。

委員:産業振興について、上条アドバイザーのご意見も伺いたい。

アドバイザー:産業のベースである製造業を維持しつつ、今後は女性がキーポイント。地元の魅力ある仕事がないというイメージだけで市外に流出していく現状がある。女性が活躍できるような環境整備と、選べる職業を増やしていくこと、今活躍している女性の魅力をしっかり打ち出すことが重要。

委員:自治会の持続可能性について。担い手不足は全国的な課題。総合戦略においても重要な課題のひとつとして捉え、より力を入れていくべきではないか。

事務局:本年度から積極的に負担軽減へ動き出す準備を進めている。行政の支援と自治会組織のスリム化などを一緒に進めていきたい。

(2) 伊那市の移住・定住施策について

会長:事務局から説明をお願いします。

事務局:(資料4により説明)

会長:説明内容について、意見、質問等はあるか。

委員:移住者と地元住民との交流や接点が少ないように感じる。また、奥様が地元出身で旦那様が県外出身というパターンが多いため、そうしたUターンの促進策も効果的ではないか。

事務局:交流や接点は重要。若い女性のUターン促進についても、今後の事業の中で検討したい。

委員:伊那市の空気感(柔らかい雰囲気)は他の地域と違う。これを強力なプロモーションとして活用できるのでは。

事務局:移住ガイドブック等で幅広く魅力を発信しながら進めている。参考意見として活用したい。

委員:教育移住について。特定の小学校目当ての移住が多いが、学校現場で多様な対応に苦慮している現状がある。

事務局:教育移住を希望される方には、教育移住支援員と連携して丁寧に対応している。教育移住であっても、学校だけでなく地域とのつながりや仕事もあるので、その家庭に合った暮らしやエリアを総合的に案内するよう努めている。また、あらかじめ特性や障がいのあることが分かっている場合は、子育ての担当部署にもつなげながら進めている。

委員:移住者の職種傾向をまとめた資料を添付してほしい。また、教育移住に伴う現場のクレーム対応など、学童クラブの現場が疲弊している。支援員の確保や研修など、市としての対応策を作してほしい。

事務局:資料については追って提出する。現場の苦労は耳にしているため、担当課と

協議を図りたい。

⇒移住者の職種傾向について集計した統計データはないものの、地域創造課の移住相談記録等から確認できる範囲においては、企業への就職が多数を占めている。その内訳としては、サービス業のほか、製造業に従事する者が比較的多いという傾向が見受けられる。

委員:移住政策で成功している伊那市だが、成功の要因をどう分析しているか。また、他自治体が追従してくる中での今後の見通しは。

事務局:移住だけを考えると限られた対象人口の獲得競争が激化しているが、予想以上に若い世代の地方移住やセカンドキャリアを見据えた移住が続いている。移住と定住の2本柱で、Uターン施策にも力を入れていきたい。

委員:地域おこし協力隊の活用についての考え方は。

事務局:これまで7割近くが定住していただいている。伊那市はミッション型で、地域にとっても隊員にとってもやりたいことが明確になっていることが、結果として定住につながっていると考えている。今後も必要に応じて隊員を委嘱していきたい。

(3) その他

会長:その他、意見、質問等はあるか。

事務局:なし

委員:なし

会長:本日アドバイザーとしてご出席いただいている上伊那地域振興局企画振興課長の上条洋様にご助言等いただきたい。

アドバイザー:活発な意見に感謝申し上げます。伊那市の地方創生・移住を市民含めた全体でやっていこうという意気込みを感じた。

2点意見を述べたい。1点目は、いかに若い女性に戻ってきてもらい、地域で活躍してもらえるかという点。長野県全体が女性の地位や活躍、性別的役割について、まだまだ無意識のバイアスが残っていると言われている。例えば、お盆の集まり等でも女性がすべての準備をし、男性は座っているだけというような光景。そうした意識を一つひとつ変えていくことで、「ここなら帰ってきて、ずっと住み続けよう」と思える魅力ある地域になっていくはず。

2点目は、移住施策のあり方について。先ほどご説明のあった「田舎暮らしモデル地域」のように、受け入れ側の地域住民の方にも、そして移住される方にも双方にメリットがあるような施策をいかに進めていくか。これがこれからの移住施策には必要だと感じている。

4 その他

アドバイザーより、みすずハイウェイバスのご案内

5 閉 会